

加古川市障害者自立支援協議会専門部会 令和7年度活動報告

加古川市障害者自立支援協議会専門部会 事務局

加古川市障がい者基幹相談支援センター

各専門部会の令和7年度の活動報告

【くらし・こども専門部会】

□ くらし部会 開催：5回

① グループホームサポートシートの更新

- ・令和5年度に完成したグループホームサポートシートの更新作業を行った。

② 映画上映会 ～“くらす”ってなに？～ を開催

- ・“くらし”を支える部会として、あらためて「障がいのある人たちが身近な地域の中で生活している」ことを意識してもらうことを目的として、一般市民も対象に開催した。
- ・後に、当事者家族からの話、グループホームでの生活の様子、部会員より市民へ伝えたいこと等の講演を合わせて実施した。

日 時：令和7年10月23日（木） 13：00～15：00

場 所：SHOWA グループ市民会館 小ホール

参加者：209名（市民を対象として開催）

内 容：①『梅切らぬバカ』の上映会

② 講演：育成会より「当事者家族の想い」

グループホーム管理者より「グループホームでの生活の様子」

くらし部会員より「市民の皆さんへ伝えたいこと」

□ こども部会 開催：4回

今後の取り組みについて協議を行った。

- ##### ① 児童期に利用する児童発達支援事業と放課後等デイサービスに必置の“児童発達支援管理責任者”について、多職種が集まっている部会の機会に、「TRUST ころろ」の上田氏による講義を受け、今後の取り組みを協議する上で必要な基礎知識を共有する機会を設けた。

②「児童発達支援管理責任者を中心とした資質向上を目指す」ことを目的として、支援者交流会を実施した。

⇒ 多職種間とつながる機会が少ないことをふまえ、支援の向上を図るため、多職種・多分野（医療・保健・教育・福祉・行政）にまたがる部会員が、それぞれ登壇の上で業務の説明や思いなどを伝える機会を設けた。

日 時：令和8年1月21日（金） 10：00～12：00

場 所：加古川市総合福祉会館 大ホール

参加者：33名 市内の児童発達支援管理責任者（OJT 期間中も含む）、相談支援専門員

内 容：i）講演『多職種・多分野の想いを聞く』

ii）グループワーク（ワールドカフェ方式）で参加者間の日々の想いを共有する

【しごと・差別解消専門部会】

□ しごと部会 開催：5回

① 「令和7年度 事業所意見交換会」の企画と開催

・日 時：令和7年9月16日（火） 13：30～16：00

・場 所：加古川市総合福祉会館 大ホール

・参加者：47名

（就労継続支援A・B型、生活介護、就労移行、計画相談、教育・雇用機関 等）

・内 容：ワールドカフェ風グループディスカッションを通して顔の見える関係をつくる

② ミニ事例検討会の開催

「ひとつの事例についてじっくり検討するイメージではなく、限られた時間の中で日常的に気になっていることや悩みを気軽に話し合う場」として事例提供者を募り、部会員も含め2つのグループに分かれて開催した。

i）令和7年10月21日（火）13：30～14：30

ii）令和7年12月16日（火）13：30～14：30

□ 差別解消部会 開催：3回

① 近況の共有と今後の取り組みについて協議

・加古川市における合理的配慮の提供の促進に係る助成金交付状況について情報を共有した。

→ 共有内容に「かこバス車内に定期的に広告を出しての啓発活動」の説明があり、本人が身に着ける既存のヘルプマークとは別に、地域住民が“見守りの意思を示す”逆ヘルプマークのようなものがあればよいのではないかといった議論につながった。

- ・逆ヘルプマークについてイラスト案を作成し配布先の検討も進めたが、全国的にもいくつかの自治体で取り込まれている実態があること、また東京都においては公式見解として「(部分抜粋)逆ヘルプマークがあると、持っていない人には声をかけづらい、逆ヘルプマークをつけていないからサポートしなくてよい、という意思表示になってしまう可能性がある」との検討結果が出ていることを共有した。
- ・現状においては成果物を作ることより、「できる」か「できない」かの二択で判断している当事者や企業といった対象へ、「こうしたらできる」といった合理的配慮のアイデアを考えて伝えていくことが必要であることを共有した。
 - 合理的配慮の義務化からもうすぐ2年が経つため、この間の市内における企業等の取り組みを調査し、その共有を図ることで「こうしたらできる」のハードルを下げる取り組みを進めていくこととなった。

【相談支援専門部会】 開催：5回

令和7年度は定例会の開催頻度を2ヶ月に1回として、その間の月に「多職種連携」と「スキルアップ」の2つのワーキングを設置した。

また今年も教育機関と相談支援専門員とのスムーズな連携を目標として「特別支援教育コーディネーターブロック会」への出席等、活動の幅を広げて開催した。

① 定例会の開催

- ・計画相談にかかるさまざまなテーマ（圏域コーディネーターの役割、地域課題、共同支援体制の実践、就労選択支援事業等）を取り上げ、グループワーク等を通して意見交換を実施した。

② 多職種連携ワーキング：令和8年1月29日（木） 播磨社会復帰促進センター見学（14名）

令和8年2月27日（金） 兵庫県地域生活定着支援センターの益子氏の講演を調整中

スキルアップワーキング：令和7年11月19日（水） 就労選択支援事業について東播磨圏域コーディネーターの濱口氏より講演（23名）

③ 特別支援教育コーディネーターブロック会への参加

- ・部会員が分かれて各ブロックの会議に参加した。

以上